

# 交野市の将来人口推計

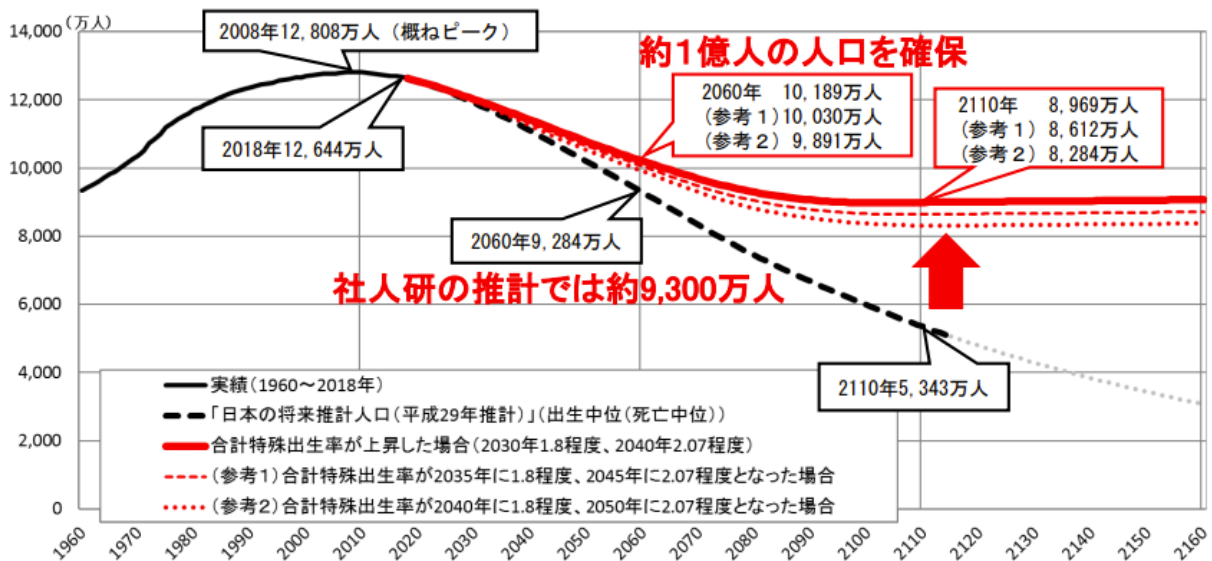
## 1. 国・府等による将来人口見通し

### (1) 国の将来人口見通し

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」と表記）の「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」によると、日本の人口は平成 20 年（2008 年）をピークに減少に転じ、平成 30 年（2018 年）には 12,644 万人となった。

2019 年以降人口減少はさらに進み、2020 年代初めは毎年 50 万人程度の減少であるが、2040 年代頃には毎年 90 万人程度の減少スピードにまで加速し、日本の総人口は 2060 年に約 9,300 万人まで減少すると見込んでいる。仮に、合計特殊出生率が上昇したとすれば、2060 年は約 1 億人の人口を確保できるとも予測している。

国の長期ビジョンにおける将来人口の見通し



(注1) 社人研「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生中位（死亡中位）

(注2) 「合計特殊出生率が上昇した場合は、2030年に1.8程度、2040年に2.07程度となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

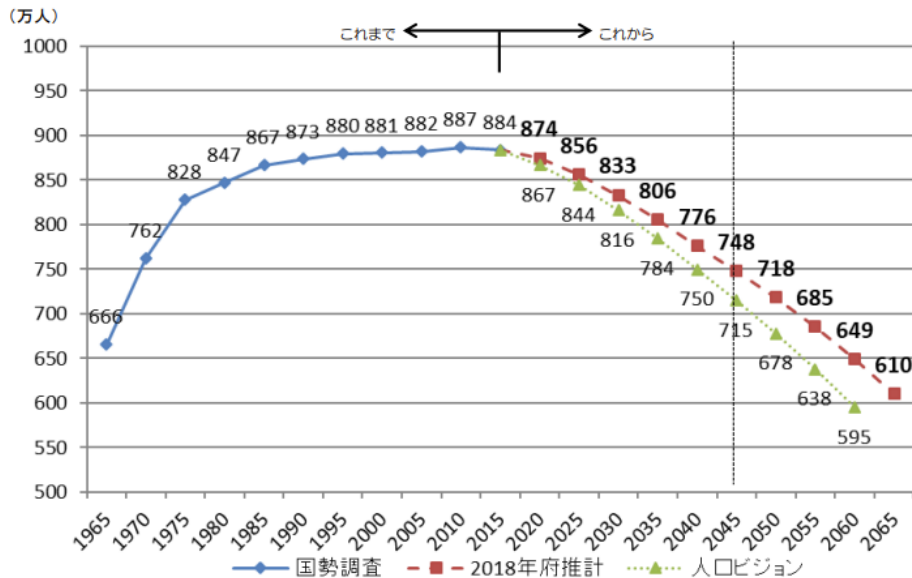
(注3) 実績（2018年までの人口）は、総務省「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。2115～2160年の点線は社人研の2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において、機械的に延長したものである。

資料：内閣府「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要）」

## (2) 大阪府における見通し

大阪府の人口は、平成 22 年（2010 年）をピークに減少へ転じ、平成 27 年（2015 年）には約 3 万人減少し 884 万人となった。2020 年以降は急速に人口減少が進むことが見込まれ、2045 年の時点で 748 万人になると推計している。

大阪府における将来人口の見通し

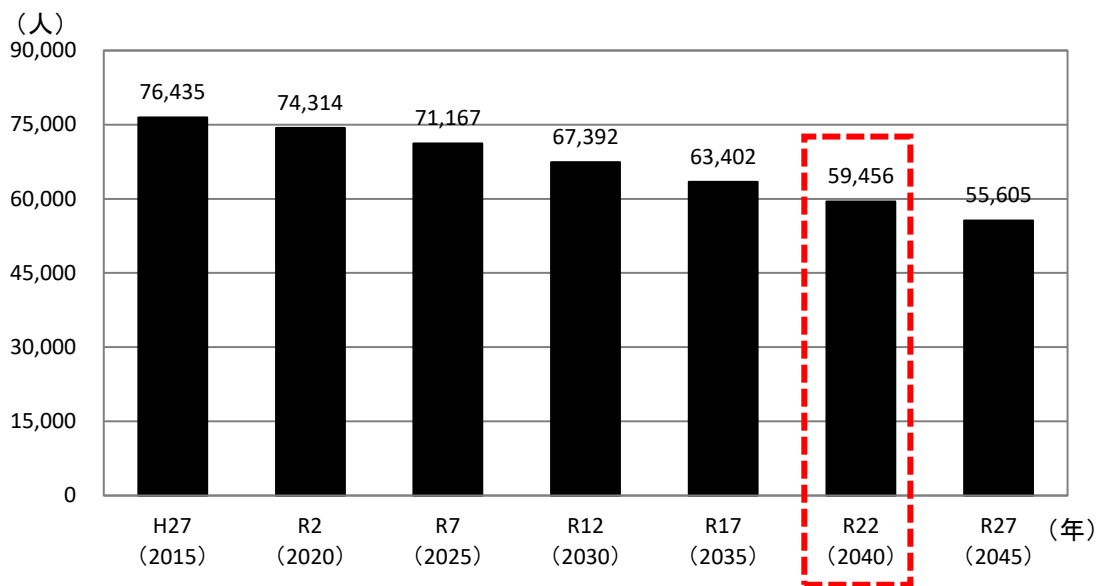


資料：大阪府「大阪府人口ビジョン策定後の人口動向等の整理（令和元年 8 月）」

## (3) 社人研による交野市の人口見通し

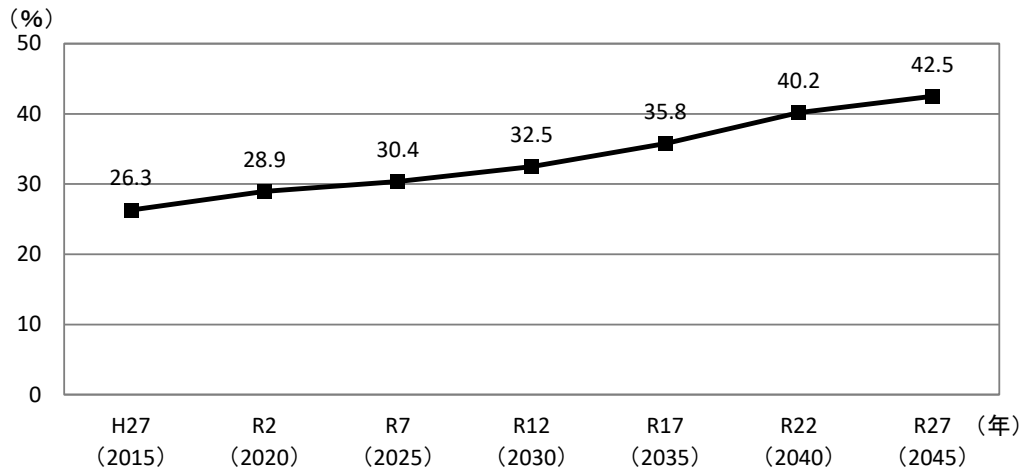
社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」による交野市の将来人口では、2040 年には 59,456 人になると推計している。

社人研における交野市の将来人口の見通し



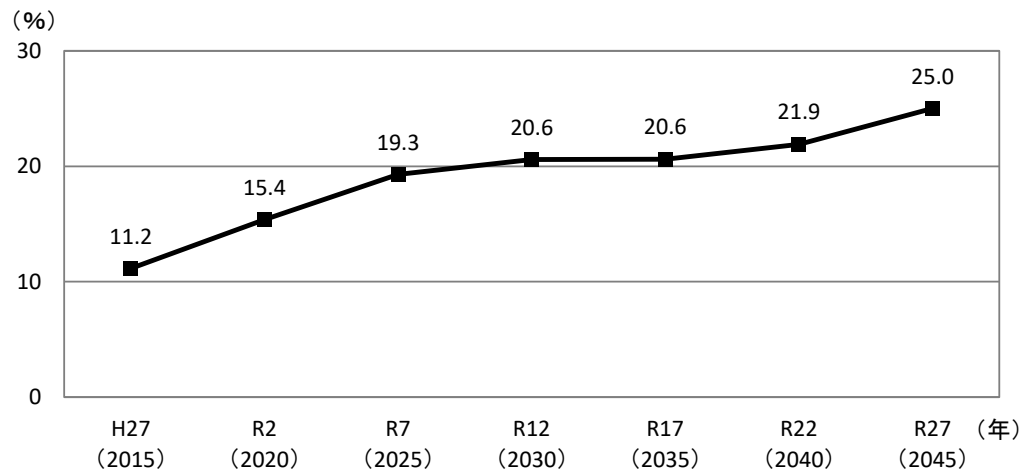
資料：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

### 社人研における交野市の高齢化率の見通し



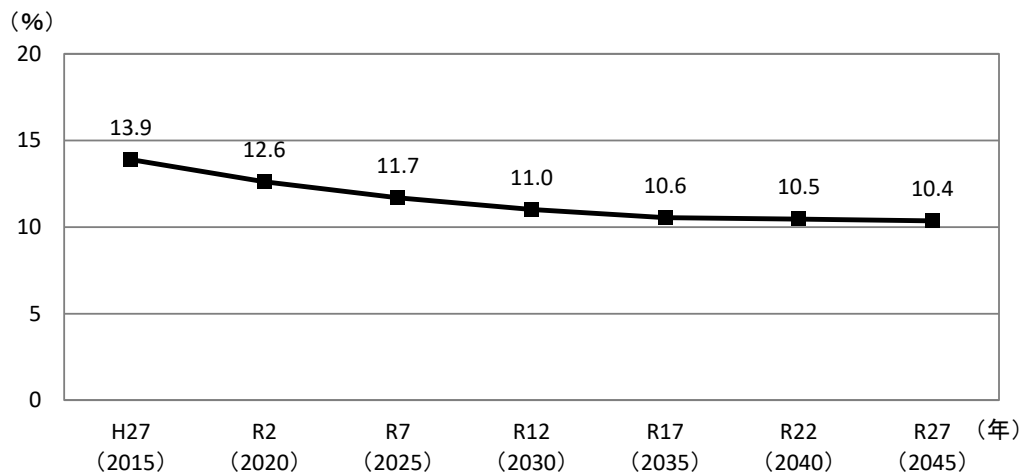
資料：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

### 社人研における交野市の 75 歳以上の人口比率の見通し



資料：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

### 社人研における交野市の年少人口比率の見通し



資料：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

## 2. 本市の将来人口見通し

### (1) 推計方法

#### 【前提】

- ・本市の将来人口推計は、国の将来推計プログラムを用いて、2015年国勢調査の数値をベースに、2060年までの将来人口について行うこととした。
- ・市独自推計のベースとなる人口は、令和2年（2020年）10月1日の国勢調査実績値とする。

#### 【市独自推計の設定条件】

##### <出生に関する仮定>

- ・社人研推計と同様に、平成27（2015）年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と市の子ども女性比との比をとり、その比が概ね維持されるものとして令和2（2020）年以降を仮定。

##### <死亡に関する仮定>

- ・社人研推計と同様に、55～59歳→60～64歳以下では、全国と大阪府の平成22（2010）年→平成27（2015）年の生残率の比から算出される生残率を大阪府内市区町村に対して一律に適用。60～64歳→65～69歳以上では、上述に加えて、大阪府と市の平成12（2000）年→平成22（2010）年の生残率の比から算出される生残率を適用。

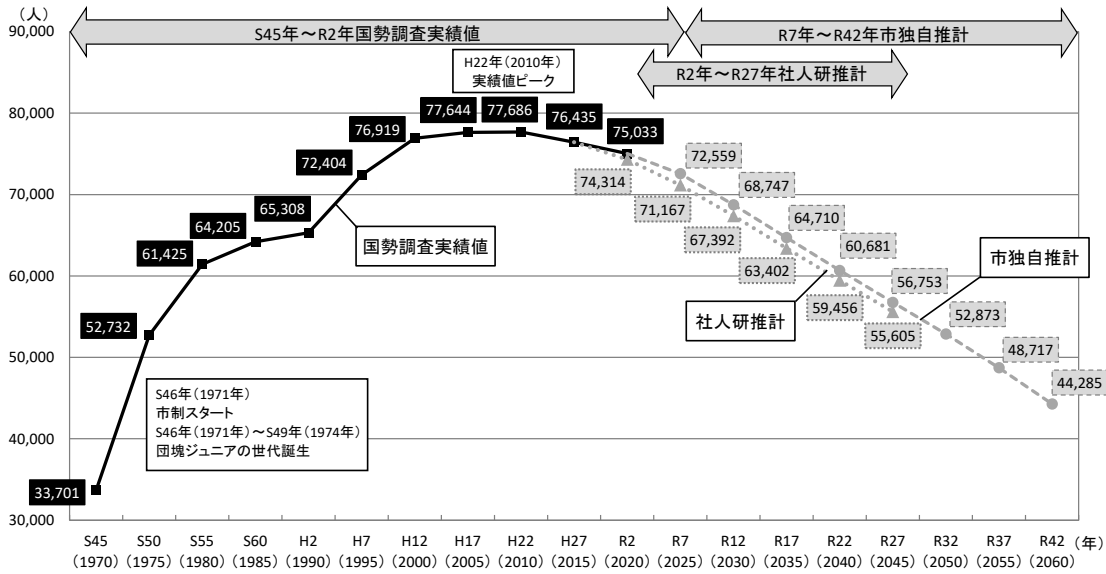
##### <移動に関する仮定>

- ・社人研推計と同様に、平成22（2010）年～平成27（2015）年の国勢調査（実績）等に基づいて算出された移動率が、令和27（2045）年以降継続すると仮定。ただし、令和2年（2020年）は国勢調査実績値に合わせ純移動率を補正した。
- ・2025年までに見込まれる大規模な住宅開発による人口増について、計画戸数に年齢別男女別戸当たり人口（近年の開発実績より設定）を乗じて算出し、加算した。

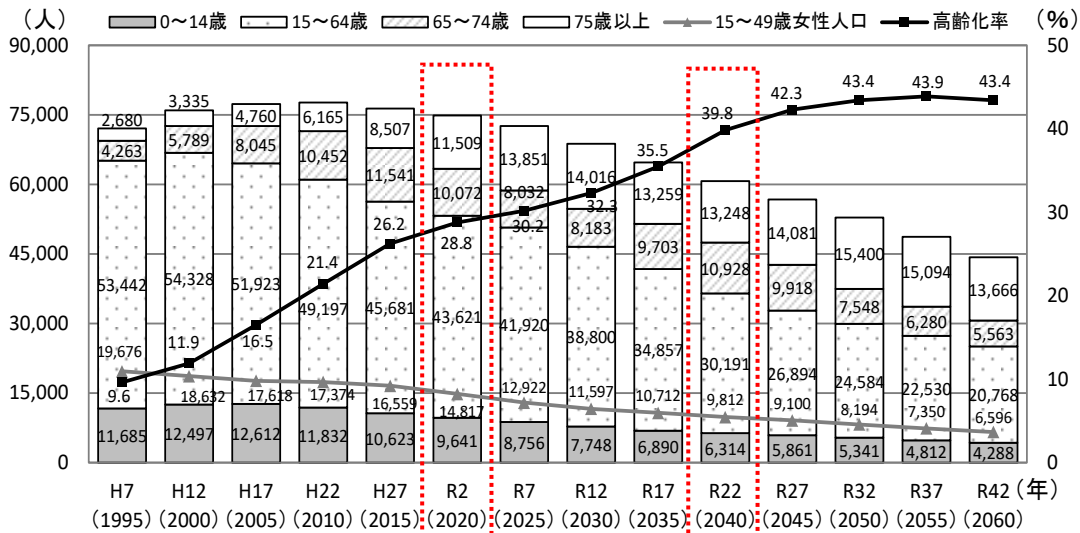
## (2) 将来人口推計結果

市独自推計では、社人研「日本の地域別将来推計人口（2018年推計）」よりも人口減少は緩やかに進み、2040年の総人口は60,681人となり、20年間で14,352人減となる見込みである。

### ①市独自推計における総人口の推移



### ②年齢4区分別人口、15～49歳女性人口、高齢化率の推移

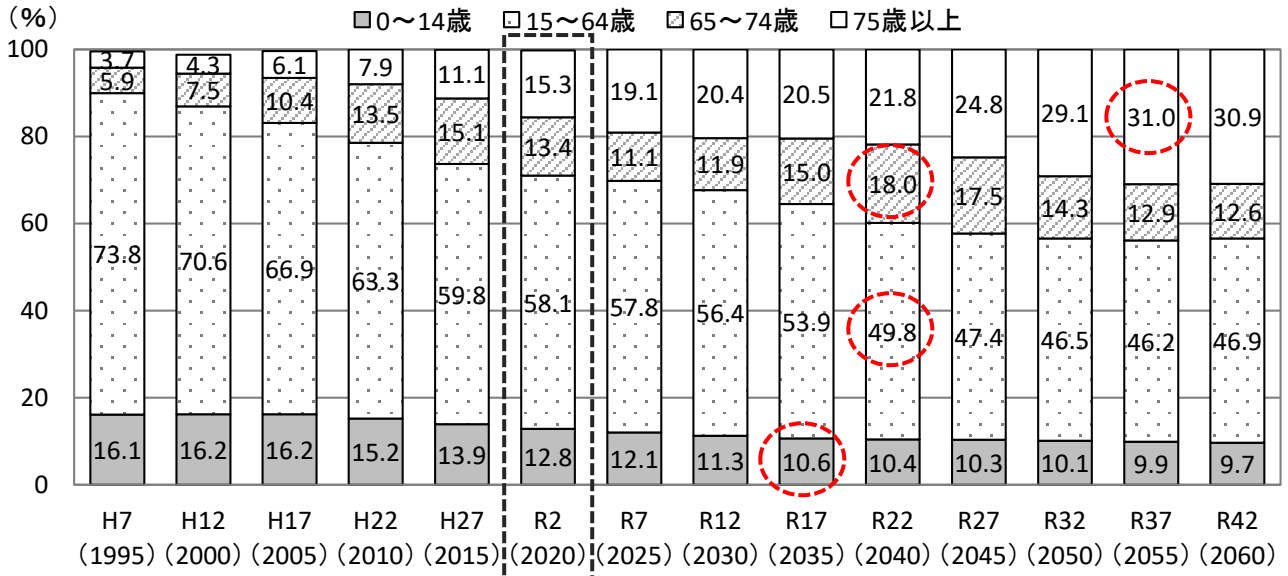


注：令和2年（2020年）までは国勢調査実績値で、年齢不詳人口は図示していない。

### ■年齢4区分別で「2020年」と「2040年」の比較

	2020年	2040年	2020年 → 2040年	
			増減数	増減率
0～14歳	9,641人	6,314人	-3,327人	65.5%
15～64歳	43,621人	30,191人	-13,430人	69.2%
65歳以上	21,581人	24,176人	2,595人	112.0%
うち75歳以上	11,509人	13,248人	1,743人	115.1%

### ③市独自推計における年齢4区分別人口比率の推移



注：令和2年（2020年）までは国勢調査実績値で、年齢不詳人口は図示していない。

#### ■年齢4区分別人口比率の推移の「見込み」について

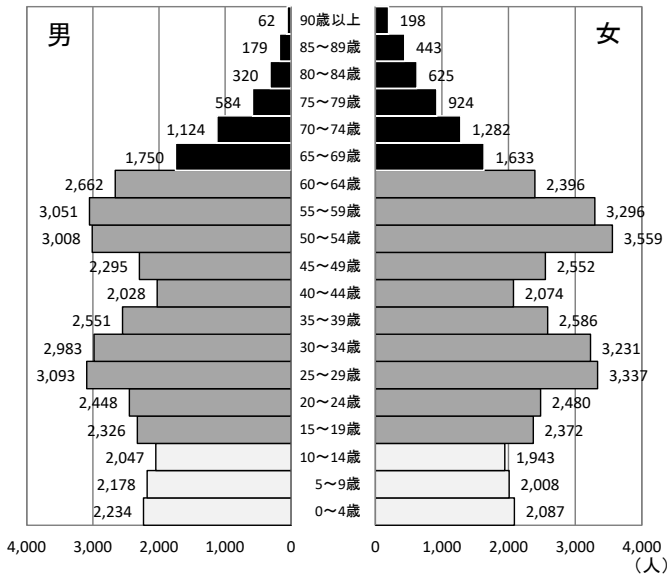
- 〈0~14歳〉 2035年頃まで減少が続き、それ以降はほぼ横ばいで推移する見込み
- 〈15~64歳〉 2040年頃まで減少が続き、それ以降は横ばいで推移との見込み
- 〈65~74歳〉 2040年の18.0%をピークに、その後は減少していく見込み
- 〈75歳以上〉 2055年まで増加傾向が続き、2060年頃から落ち着く見込み

#### ■年齢4区分別人口比率の「2020年」と「2040年」を比較

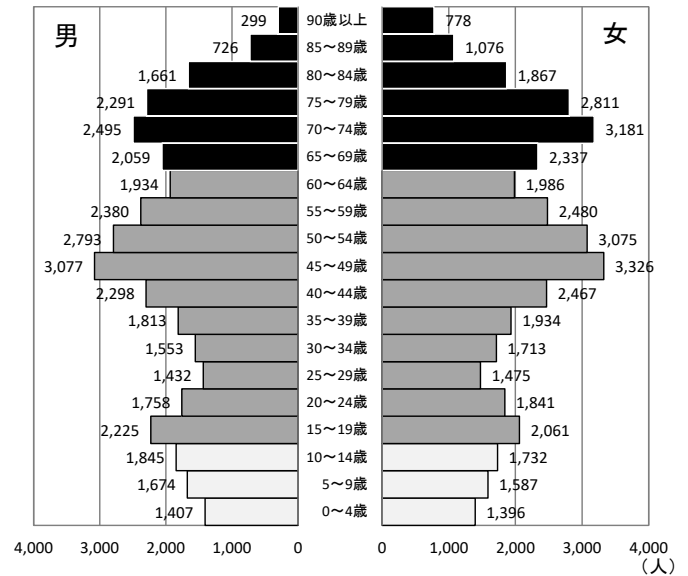
	2020年	2040年	増減
0~14歳	12.8%	10.4%	-2.4%
15~64歳	58.1%	49.8%	-8.3%
65~74歳	13.4%	18.0%	4.6%
75歳以上	15.3%	21.8%	6.5%

#### ④人口ピラミッド（男女別・5歳階級別）

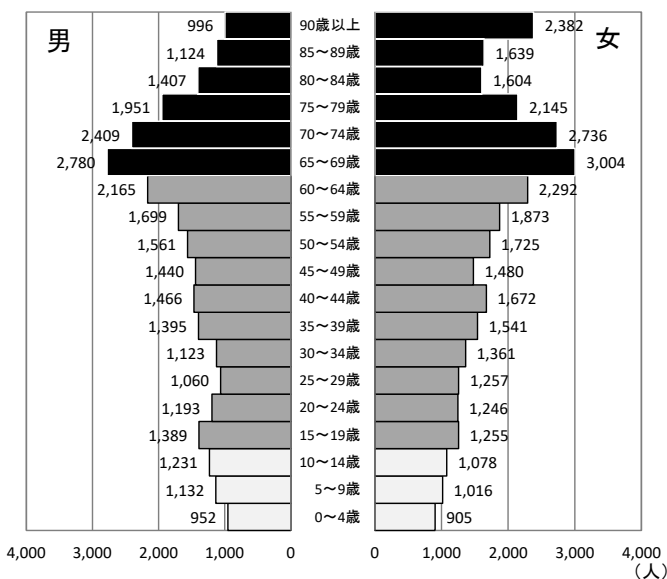
【2000年】



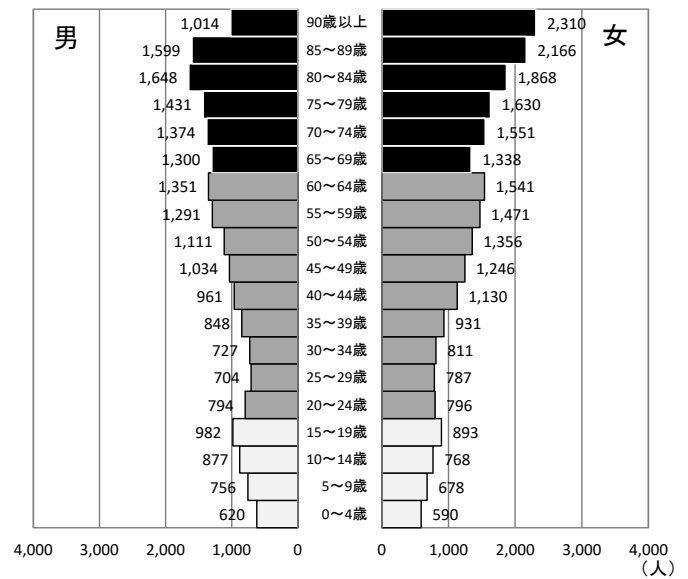
【2020年】



【2040年】



【2060年】



人口構成は、2000年は15～64歳人口（生産年齢人口）が多く、65歳以上人口（老年人口）が少ない「釣り鐘型」であったが、2020年には0～14歳人口（年少人口）が少なく、65歳以上人口（老年人口）が多い「つぼ型」に変容している。

2040年、2060年には0～14歳人口（年少人口）、15～64歳人口（生産年齢人口）が減少し、さらに細い「つぼ型」に推移すると見込まれる。